別紙様式1　令和8年度　沼田西小学校　学校評価表　（　中間・最終　）　三原市立沼田西小学校　校番（　13　）

a 学校教育目標	「自ら伸びる」児童の育成　わくわく登校、満足下校	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 夢や目標に向かって，自ら伸びようとする児童を育成する学校 【育成を目指す資質・能力】〇知識及び技能　〇思考力・表現力　〇主体性

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g目標値	10月 h達成値	2月 h達成値	i達成度	j評価	k結果と課題の分析	n改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	mコメント
確かな学力	〇主体的に考え深く学びあう子供の育成 【三原市学力定着調査目標値プラス5以上】	教務・研究部 ◎自ら考えをもち、深い学びのある算数科授業づくり 〇R80を核とした授業デザイン 〇基礎・基本の徹底（個別の最適化） 【単元テスト　学年平均80点以上】 【学力調査標準値より2ポイントUP】	【授業改善】 ①既習と未習の「相違点」に着目させ解決の見通しを持たせる ②既習と未習の「共通点」に気づかせ、数学的な見方・考え方を獲得させる ③R80 を核とした逆算式の授業構想（R80の質を向上） 【研修内容・方法の改善】 ①基礎・基本の徹底 （個別の最適化・複数支援・補充学習） ②問題づくり（学力テストを授業改善に活用） ③事前研修の充実・他校との合同研修	①単元テスト ②学力調査 ③児童アンケート	①平均得点率80%以上 ②学力調査標準値より2ポイントUP ③肯定的評価80%以上	①82.4% － ③86.8%		①103 % － ③108%		①【単元末テスト】 学期末テストの学校平均は82.4%で目標値は達したが、どの学年も定着が不十分な単元があったため、繰り返し定着を図っていく必要がある。 ③【アンケート結果】 児童アンケートの肯定的評価は、全ての項目において80%以上で目標を達成することができた。相違点を考えながら学習する姿は85.3%、共通点を探しながら学習する姿は89.1%と肯定的評価が見られた。しかし、「クラスの友達と話し合ったり、考え合ったりすることで、新しい考え方を思いついたり、意見を広げたりすることができましたか。」という項目は80.4%で、より多くの児童に、協働的な学習のよさについて感じさせることがまだできると考えられる。	【授業改善によって学力の向上を図る】 ①講師を招聘しての教材研究の充実 A　児童が自力解決するために（問い→既習と未習の相違点） B　数学的な見方・考え方を獲得するために（まとめ→既習と未習の共通点　見方・考え方の系統性） C　主体的に考え、深く学び合うために（自己決定・自己選択する場） D　算数科においては、「一人学び→ペアやグループ→全体学び」といった授業スタイルを確立し、協働的な学習の学びの時間を増やす。 E　全学年で話し合いスタイルを統一して行うことを通して、相手意識をもちながら話し合ったり他者に説明したりしていく。 【基礎基本の徹底によって学力の向上を図る】 ①きらきらタイムにおいて、次のことに取り組む。 ・四則計算の徹底 ・解き方を丁寧に解説、確実な解き直し、数字や問われ方がかわっても、自分で解決に導くことができるようにする。 ②学力テストの結果を踏まえての合同研修を実施、問題づくりを通して、授業で付けるべき力の確認と日々の授業の見直し。	4 4			・研究（授業改善による学力の向上を図る）の具体が授業にあらわれていた。 学校として取り組んでいこうとしている様子が授業を通して理解することができた。特に、問い→既習と未習の相違点、まとめ→既習と未習の共通点がうかがえた。 ・自分で考えている途中でも、友達と伝え合ったり、分からない時は聞いたり、協働的な学習へつながる初めとしての子供たちの様子が分かった。 ・問題を解くにあたって、前回の授業で学んだことをふまえて、子供たちにも思い出させるような問いかけをしながら、分かっていること、聞かれていること、答えを出すために必要な言葉を確認しながら授業を進めていることが、わかりやすかったです。 ・グループワークを通して、答えの間違いを過度に嫌がらず、怖がらず、さまざまな意見や答えに触れて、これからものびのびと学習してもらいたいです。 ・情報モラルやネットリテラシーへの意識の向上を図ることは、とても大切だと思う。保護者を含めた研修も必要になってくると思う。
			【ルールを守り活用できる児童】 ①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子どもの姿で設定 ②タイピング練習で情報活用能力の基礎力の向上 ③情報モラル教育の充実	①マイプレゼンの実施 ②タイピング検定 ③情報モラル教育	①②③ 年1回以上	実施率 ①3/6学年 ②2/6学年 ③4/6学年		50%	B	①スライドを用いたプレゼン活動を授業だけでなく委員会活動等にも取り入れ、児童のICT能力の向上につながった。学年でのプレゼン活動は4年生、5年生、6年生で行った。 ②授業やクラブ活動などで、タイピング練習や検定への挑戦に取り組み、タイピング能力の向上に努めた。しかし、各学年へのタイピング活動を周知しきれておらず、活動そのものは少なかった。 ③SNSをはじめとしたインターネットの使い方について、ICT担当による指導を1年生、2年生、5年生、6年生に対して行った。特にタブレットの扱いや、SNSの危険性を中心に、事例や動画で注意喚起を行った。	【ICTの活用を積極的に行いつつ、その注意点についても指導を行う。】 ①引き続き授業や委員会の発表などでスライドを用いたプレゼン活動を行い、今年度の全学年での実施を目指す。 ②タイピング検定への挑戦を全校で行えるように、声掛けや授業での取り組みなどを行っていく。 ③3年生、4年生に対しても全校で指導を行い、情報モラルやネットリテラシーへの意識の向上を図る。そのために、情報モラル教育の資料の共有を図り、実施状況を確認するようにする。	4			
豊かな心	〇親和性の高い集団づくり 【I-check・自己認識・社会性の向上へ】	生徒指導・保健部 〇目標に向けて、仲間と共に考動・協働できる子どもを育てる。 【I-check・社会性の向上へ】 【自己評価・・・児童】	【PDCAサイクルと振り返り】 〇学級目標・個人目標の設定と評価活動 （定期的なR80） 〇振り返りの視覚化（掲示） 〇児童会活動の活性化 【自己肯定感の向上】 〇お互いのよさを発見できる縦割り班や行事の充実 （自己発信の場と他者評価の設定）	①学期・行事ごとのR80の実施 ②I-check・社会性 ③児童の自己評価	①R80の実施100% ②I-check・社会性の向上80%以上 ③児童の肯定的評価80%以上	①100% ②80.7% ③85.6%		①100% ②100% ③107%	A	①学級目標・個人目標を設定した。学級での帰りの会では毎日学級目標を振り返ったことで、目標に向けて仲間と共に協働しようとする意識が高まり、親和性の高い集団づくりにつながった。また、学期末では、個人目標を振り返り、文章にまとめたことで、自分の成長や課題を見つめ直すことができた。 ②I-checkを分析した結果、社会性の項目において、平均して80.7%の児童が肯定的な回答をしている。項目ごとでは、「発信力」が6学年中3学年が全国平均値を下回り、自分の意見を発言したり、他の人の意見に対して質問を行うなどの発信力に課題が見られた。 ③アンケートの結果、平均して85.6%の児童が肯定的な回答となった。「自分には相談できる人がいる。」という項目においては97.1%という高い割合の児童が肯定的な評価を示した。「自分の良いところが言えますか。」という項目においては、肯定的評価が78.5%で80%を下回る結果となった。児童が自ら活動できる場を多く用意することができたが、児童に個別に肯定的な掛け声をする機会が少なかったのではないかと捉えている。	【PDCAサイクルの振り返りを通して目標に向けて考動・協働できる子どもを育てる】 ①学級目標・個人目標の設定と振り返りを継続する。また、代表委員会を継続して行い、各委員会や学級委員から意見を出し合い、児童会活動の活性化を図る。 【自己発信、他者評価の場の設定による自己肯定感の向上を図る】 ②ペア学習の4つの「あ」や話し方、聞き方名人を意識させ話し合い活動をすることで、話しやすい規律を作る。 ③行事後の感想の手紙交換を継続することで、自らの意見を発信するとともに、他者からの肯定的な評価を受ける機会を設ける。	4			・各委員会の方針や目標など委員長の言葉が掲示してあり、CSの活動後、いつもていねいな児童の手紙をいただく。地域の方もとても感謝している。 ・子供たちの自己肯定感がやや80%を下回るということを知り、家庭においてもわが子や地域の子供たちへの声かけを良かれと思って注意だけにしないように気を付けようと思いました。
健やかな体	〇運動に対する意欲の向上 【個人記録の結果が全員UPする】	生徒指導・保健部 〇楽しみながら体を動かすことで体力を向上させる。 【個人記録・アンケートの結果が85%UP】	【運動に対する児童の意欲向上】 ①体育科を中心とした、準備体操やACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）。 ②体力テスト後に課題がある種目を定期測定し、自分の伸びを実感させる ③全校外遊び ④視覚的に目標やゴールが見えるカードの作成と評価	①個人記録の結果 ②児童アンケート	①個別の向上率85%以上 ②児童の肯定的評価80%以上	①2学期末の計測 ②平均89%		① ②111%	B	①6月に全校で体力テストを行った。8種目において、50m走は比較的良い結果であった。しかし、1・2年は握力、3・6年はソフトボール、4・5年はシャトルランに課題があることが分かった。12月には2回目の体力テスト実施予定のため、その結果をもとに、最終評価で分析を行う。 ②児童アンケートの結果を見ると、「体を動かすことが好きですか。」の項目では、肯定的な児童の割合が91.1%、「進んで外遊びをしたり、体を動かしたりしていますか。」の項目では肯定的な児童の割合が88.2%となり、運動に積極的に取り組む児童の割合が多いことが分かった。これらは、スポーツフェスティバルやロング昼休憩等を通して、運動を楽しむことのできる雰囲気づくりを積極的に行った結果だと捉えている。	【体力の向上に向けて】 ①体育の授業において、握力では、うんていや鉄棒、登り棒、ソフトボールでは、遠くに投げたり強く投げたりする活動、シャトルランでは「〇分間動き続ける」等、時間を意識した運動等を取り入れ、体力の向上を目指していく。 ②ロング昼休憩では、児童会や体育委員が主体となって、「全校ケイドロ」や「宝さがし鬼ご」等、運動が苦手な児童でも楽しむことができるような活動を取り組んでいく。	4			・「全校ケイドロ」「宝さがし鬼ご」等のみんなが楽しめる活動を続けていってほしい。 ・外で体を動かしている子供たちの姿は（運動が苦手な子もいると思うが）いきいきとしています。楽しく取組を続けてほしいです。
地域に信頼される学校	〇コミュニティ・スクール・幼保小中連携による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。 【コミュニティースクール】 【五中ブロック】	教務・研究部 〇沼田西小の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。 【自己評価・・・児童】 【アンケート評価・・・保護者】	【コミュニティスクールを活用し教育力向上】 ①学校の教育活動を、地域と共に企画・実行することで、地域の方や地域の事に関わる機会 ②地域への感謝の気持ちを視覚化・伝えることの大切さを実感 ③総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント（地域資源のよりよい活用方法・地域学習の充実）	児童アンケート 保護者アンケート	自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート項目の肯定的評価80%以上	84% 99%		100%	A	【児童アンケートの結果】項目の肯定的評価　平均84% 〇沼田西町のことが好きですか　92.2% 〇沼田西町のためになることをやってみたいですか　84.3% 〇自分のことが好きですか　81.2% 〇自分の良いところが言えますか　78.5% コミュニティ・スクールを活用した教育活動として、4月エヒメアヤメ観察会（全校）、ゲンジボタルの話を聞く（4年）等を実施し、感謝の気持ちを手紙に書いて伝えることができた。こういった活動を通して、ふるさとへ愛着は高い数値となっているが、「自分のよさ」について表現することが80%をやや下回っている。 【保護者アンケートの結果】肯定的評価　平均　99.4% 〇子供たちは、いきいきと活動することができていたか　98.8% 〇子供たちは、協力し合って活動することができていたか　100%	【自分や地域のよさを実感できる活動の充実】 8月に第1回地域学校協働本部・第2回学校運営協議会を開催し、地域の方と学校・保護者が顔を合わせ、今後の取組について具体的な話をしたり、沼田西町全体で子供たちの学びや成長を支えていくことを再確認したりすることができたので、引き続き計画的に取組を進めていく。また、カリキュラム・マネジメントを通して、児童が自分や地域のよさを実感できるようなより効果的な教育課程となるよう工夫していく。	4			・8月に第1回地域学校協働本部、第2回学校運営協議会では、先生方みなさんに参加していただき、振り返りや今後に向けての計画など話をすることができました。 ・子供たちをサポートする地域の方々や保護者も、体力や時間が忙しくなかったり、多様な状況はあると思いますが、魅力的な方々もたくさんいらっしゃるので、「小さなできること」を意識してこれからもつながって子供たちが健やかに育ちますように思います。 ・これからもお互いが思いやる職場づくりを進めてください。 その事が子供たちの教育につながります。
	〇チームNTNSとして、業務改善を図る。 【時間外勤務時間目標総時数　達成率100%】	総務部 〇在校時間を短縮する。 【時間外勤務時間目標総時数達成率100%（平均値45時間）】	【適材適所の人材配置による業務改善】 ①個性を発揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②建設的な雰囲気を醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生き生きと働くことができる組織へとさらに成長 ④業務改善のための校務DX ⑤不祥事0	①時間外勤務時間数 ②教職員アンケート	①年間平均45時間以内の職員100% ②教職員アンケート肯定的評価85%以上	100% 95.8%		100%	A	【時間外勤務とアンケート】 ①について 繁忙期は時間外勤務が45時間を超える職員も数名いたが、4月から8月を平均すると、全職員45時間以内で、全体の平均は25.4時間であった。 ②について アンケートの結果は肯定的評価が95.8%であった。 〇仕事で困ったり悩んだりしたときに、相談できる相手がいる。91.6% 〇困ったり悩んだりしている人がいたら、相談にのったり、支え合ったりする心持ちや姿勢がある。100%	【チームNTNSの育成と業務改善のための校務DX】 ①業務改善に関するアンケート結果をもとに、業務について見直し、働きやすい職場環境を整備していく。早めのスケジュール管理を意識し、各部で進捗状況を確認しながら業務に当たる。 ②面談等を通して、教職員の思いを聞きながら、個の成長と組織力の向上を目指す。	4			

本年度の重点目標については◎印で示す。

【l:学校関係者評価　評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。